

平成 20 年 9 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中齋塾 北関東フォーラム

平成 20 年 第 8 回講話

御無沙汰を致しました。2 ヶ月くらい間が空きますと、何だか懐かしいような感じがします。

おかげさまで『陽明学のすすめ』が出来上がりました。一般の本屋さん並ぶのは、10 月の中旬になりそうです。『素読論語』も売れているようで、再版されることになりました。小学校から論語を学ぶという方向が文科省で決定付けられたそうですし、中国でのオリンピックの冒頭に論語が流れたり、どうも論語には大分追い風が吹いて来ていると思います。

素読は理屈を考えなくて結構です。『素読論語』は、この書き方の通りに読んでいけば、知らず知らずのうちに名前や地名が頭の中に入ってきます。意味を考えなくても、読んでいけば自然と指導者になっていくようなテキストになっています。知らず知らずの間に解説が出来るようになってきます。特に、小さい時から素読を身に染み込ませる事が重要だと思っています。

では恒例の質問を致します。

「昨日一日、嘘をつかなかった方は手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

夜寝る時に、嘘をつかなかったと思って眠るとすっきり眠れます。それと日常生活の中で、リップサービスをするような場面で、自制心が働きます。

「では、お目にかからなかった間の 2 ヶ月弱、嘘をつかなかった方はおられますか」

(・・・二人手が挙がる)

優秀ですね。是非お続けください。

「夕べ眠る時、今日一日良かったなと思って眠れた方はおられますか」

不思議なもので、嫌な事があつたら掌で丸めて「消えてしまえ」と言葉に出して言うと消えてくれます。エネルギーも生まれて来ます。

では、本日の「心に残る言葉」に参ります。

浸潤の譖、膚受の愬を見抜くのに、つけ焼刃の学問では見抜けない。長い時間をかけて、身体に染みついた判断基準がなければ、見抜くことは不可能である。

『**深澤論語を読む**』 深澤賢治著 明德出版社

これは、大岡越前守が儒学を学びたいと荻生徂徠に頼んだ時に、荻生徂徠が答えた件の一部分です。

あなた（大岡越前守）のような要職に就いて、裁判をする時の判断基準をこれから覚えたいというのは、ちょっとおやめになったほうが良い。あなたは既にしっかりした判断基準をお持ちだから、その判断基準でおやりなさい。付け焼刃の学問はおやめなさい。ということです。

その中で「浸潤の譖」と「膚受の愬」についてスポットを当てようと考えています。

「浸潤の譖」(しんじゅんのしん)・・・小さな事を少しずつ少しずつ積み上げていって、心の中をひたひたと侵して行く。その結果として一つの形が出来る。

例えば年金問題について、日本の行政のやることは信用できないと思う方が多いと思います。これも浸潤の譖です。だめだという報道が毎日のようになされると、それが心の中をひたひたと侵しますから、信用出来ないという結論が日本全国に広がっていく。毎日毎日そのことに関する情報を色々な形で出していると、知らず知らずのうちに心の中に一つの結論が生まれてしまう。つまり誘導されてしまうことになります。

「膚受の愬」(ふじゅのそ)・・・或る日突然とんでもない事が起き、情報が流れて、自分自身に迷惑がかかって困った状況になると、防衛本能で動いてしまう。「愬」は訴えですから、ベースは嘘です。

例えば「この銀行が危ない」という話が出た瞬間に、取り付け騒ぎが起こりますね。日本でもかつてありました。刑事事件になったものの原因を調べていったら、電車の中で女子高校生が何の気なしに言った言葉がどんどん広がって行ったものだった、という事件がありました。

振り込め詐欺もそうです。或る日突然とんでもない情報が送られてきて、自分が損をするとか思わずに、相手を助けようといった行動に走って、騙されてしまうわけです。

では、「浸潤の譖」「膚受の愬」を自分に活かすにはどうすれば良いか・・・。

最近一つの情報がしょっちゅう耳に入ってくるとしたら、<これは誰かが仕掛けているのではないかと>と思う眼を養う必要があります。これが「浸潤の譖」を見抜く事です。

相手を騙してうまい事をしようと思った時には、相手が納得するような、とんでもない

事をポンと言えは言いのです。ですから突然何か頼みごとを言ってきた時には、<これは本当か？>と疑う眼を持つ必要があります。これが「膚受の愆」です。

世の中で起きている最近の問題を見ると、拉致や汚染米・メタミドホスは「浸潤の譚」に入ります。汚染米の広がりやイオンも被害を受けて、「あれはテロだ」と社長が言っていたと新聞で報道されていました。「浸潤の譚」だと思われるような出来事は、いずれ自分に関係してきます。そう思って世の中の動きを見ていると良いでしょう。

私は以前、世の中はインフレとデフレのよじれ現象だと言いました。それを今、変えました。ここ1、2ヶ月で日本の経済は、今までにない異次元の状況に突入したと思っています。今は、インフレの中でよじれが出て、デフレの中でよじれが出ています。経済学では解説できない現象が出ています。

インフレはどんどんもの値段が上がっていきませんが、最近のインフレで凄いと思ったのは、アフリカのジンバブエで220万%のインフレ率だそうです。パン1斤が1000億ジンバブエドルだそうです。考えられませんが、インフレのどんどん行きつく先はこうなってしまうのです。ところが今、インフレで値があがっていくばかりの中に値下げの仕掛けが始まりました。いわゆるPB商品（プライベートブランド）を売り始めています。セブン&アイ・ホールディングスさんがPB商品を主にした1号店をオープンしましたし、イオンさんは800店舗くらいで、食品の3割から4割をPB商品に切り替える動きを始めました。インフレはよじれてきています。

デフレとは、大型の商品（土地・建物・車・・・）がデフレスパイラルで下がっていくわけですが、デフレ商品も値上がりを始めました。車の値上がりが始まりだし、パソコンや家電商品も値上げをしました。デフレの中にもよじれが出てきたわけです。何故このような状況を放置しているのかと考えると、手が出せないからです。

最近起きている世の中の一番の元凶は、サブプライムローンです。アメリカの低所得者層向けの住宅ローンです。最初は金利が安いのですが、何年か経つと払えるはずのない金利に上昇します。日本の住宅ローンと違う所は、払えなくなって家を投げ出せば請求されません。後始末は売った人がするわけです。尚且つ、これは毒入りまんじゅうですから、毒が分からないように別の商品と混ぜて世界各国に輸出したわけです。それがとんでもないことになって、坂道を転げ始めた。住宅ローンに関係した所はバタバタ潰れています。政府系住宅金融公庫のフレディーマックやハニーメイがおかしくなりました。アメリカの住宅ローンの融資残高の半分以上を抱えていたのがどうにもならなくなって政府の管理下に入りました。

リーマンブラザーズも倒産です。アメリカの国力も一気に悪くなっていきます。アメリカ政府が気にしているのは、アメリカ発の世界金融恐慌を起こさないようにしようという事です。リーマンが潰れても世界恐慌は起きないと思うのでアメリカ政府は手を出さなかったのですが、AIGが潰れたら世界恐慌の引き金を引くようになりますから、救済したわけです。

今、アメリカの経済は雪だるまで坂道を転げ落ちていきます。それに日米欧が協調で融資していますが、転げ落ちるスピードを緩めるだけの効果しかないと思います。アメリカの国債は紙切れになると思っています。ドルが下落するのは目に見えています。アメリカの大統領戦はこういう状況を見据えていますから、オバマ候補にしてもマケインさんにしても外交の話ばかりで、経済の立て直し等の政策は言っていません。

翻って日本を見ると、食糧の偽装問題に見られるように心が荒んでいます。拝金主義真っ只中で、教育は荒れ放題です。アメリカの墮ち方と負けず劣らず坂道を転げ落ちていきます。アメリカが先か日本が先かという事です。アメリカが先でも、津波で日本は沈みますから、日本の銀行もバタバタと倒産するでしょう。

その中で、中国が少し違ったポジションになって来ています。中国もサブプライムローンの毒まんじゅうを食べていますから、住宅バブルはもう崩壊しています。ただ統制国家ですから、動きが少し違います。

日本は、二代続けて総理大臣が辞任しているような体たらくですから、外国から見てもじつに扱いやすい。中国から見ても何と与しやすい国かと思っています。ロシアもグルジア紛争に関して日本は何も言わないのですから、そう思っているようです。

サブプライムローンは各国に飛び火していますから、ブラックマンデーは起きるに決まっています。問題は何時、どれくらいの規模で、何処が・・・という事態になっていると思います。全世界が坂道を転げ落ちる。その転げ落ち方が、その国の状況によって違うのだと思います。

最後に温暖化について少しお話しします。

ミャンマーでサイクロンが起きて大変な被害がありました。これは世界各国で今後も起きます。温暖化が進むにつれて、従来簡単な自然災害で済んだものが、そうはいかなくなりました。

私は今年ブータンに行きました。地球温暖化で国が沈むという話を聞いて出かけたわけ

です。

又、ブータンは国王がGNH（国民総幸福量）というものを打ち出しています。人間が幸せだという判断は、GNPやGDPのようにお金をどれだけ稼いだかという基準ではない。これからはGNHの時代である。国民が幸せだと感じるならば、国王として文句はないという考え方です。

それらを確認したいと思って、ブータンに行きました。行って驚いた事を申します。

ブータンは、宗教と政治が一体化していました。国会議事堂では最高権力者の席と大僧正の席が並んでいました。ブータンの人達は死んだ後に生まれ変わるという事を心から信じていました。実に純朴でした。江戸時代に外国人の宣教師が日本に来て、本国に「日本の国民は素晴らしい。礼儀正しいし識字率も高い。何よりも笑顔がいい」と報告していたと言いますが、ブータンに行って、かつての日本人もこうだったのだろうと感じました。

ただ、今どんどん文明が入り、ブータンの人達は欲に犯され知足の世界が侵食されて来ているという事で、何とかしなければならぬというジレンマに陥っているという事が分かりました。

温暖化でヒマラヤ山脈の上の方にある氷河湖が解けて、水が下に流れて国が沈むと聞きました。そのような現象はありましたが、一つの村や町が洪水にあって沈んだとしても、国は沈まないという事が分かりました。

ですからブータンは今後とも、GNHを中心に注目していこうと思っていますし、私の講話でも、取り上げる機会があると思います。

以上で本日の東京フォーラムを終了させて戴きます。有難うございました。